

1. 周産期データベースの利用法に関する研究

岡 井 崇 (東京大学医学部産婦人科)
馬 場 一 憲 (" ")

東大産婦人科では昭和48年1月から東大病院で分娩したすべての症例につき妊娠経過, 分娩結果, 新生児結果など216項目のデータを大型コンピュータに蓄積し活用している。今回そのシステム, 利用法, 問題点につき報告する。

(1) システム

データ入力を受持褥婦退院までに受持医が図1で示す2枚複写式のデータシートにデータを記入する事から始まる。(この一枚はそのまま外来カルテに挿入され外来連絡用となる。)データシートは毎年集められ2~3回のチェックを受けた後, 専門の業者によりパンチカード化される。この1年分のデータは前年までのデータに追加され大型コンピュータのディスクおよびMTにて保存している。なお, この時点でデータ不備が見つかった場合は端末からフルスクリーンモードで容易にデータ修正が行えるようになっている。

(2) 利用法

コンピュータのディスクに保存されたデータ

は現在では主に2つのプログラムで利用している。

1つは統計処理用プログラムSPSSで, これをバッチ処理で利用し各種臨床統計, とりわけ毎年1年分の分娩について集めた産科統計作製に活用している。この統計には, 昭和48年からのデータも加えられ10年間の統計, 10年間の推移などの検討もなされている。

2つのはTSSが使えるQUERYというプログラムで, 症例のリストアップおよび簡単な統計処理を行い臨床統計, 症例検討などの基礎資料としている。図2にQUERYによる糖尿病合併症例のリストアップの例を示す。

(3) 問題点

1. 入力項目の選択, 追加, 改正について
2. 入力データの不備を減らす方法について
3. 誰がプログラムを作り改良するか。
4. データ管理, 保護の問題。

現在これらの問題につき検討している。

図 2.

分娩台帳番号	氏名	年齢	経産回数	妊娠持続期間	体重 (第一児)	アブカノ 身長
730100	●●●●●●	34	3	311	1870	*
730235	●●●●●●	32	2	412	3380	*
730261	●●●●●●	38	3	390	3850	*
730434	●●●●●●	32	3	360	2930	7
730572	●●●●●●	26	0	414	3430	*
730706	●●●●●●	34	0	405	3960	10
730714	●●●●●●	27	0	400	3020	9
740062	●●●●●●	37	1	391	2730	9
740069	●●●●●●	27	1	401	3870	8
740115	●●●●●●	28	2	404	4180	7
740356	●●●●●●	30	1	404	4310	9
740468	●●●●●●	34	3	334	2720	*
740750	●●●●●●	25	1	372	4900	9
740753	●●●●●●	32	0	384	3340	9
740777	●●●●●●	36	0	413	3250	*
740544	●●●●●●	26	0	360	2280	*
750122	●●●●●●	37	1	385	3880	7
750157	●●●●●●	32	0	370	1980	8
750271	●●●●●●	33	2	364	3370	9
750420	●●●●●●	42	0	403	3350	4
750683	●●●●●●	27	0	416	4500	10
750730	●●●●●●	38	4	380	3950	10
760107	●●●●●●	34	0	393	2790	9
760683	●●●●●●	30	1	374	3550	9
760768	●●●●●●	27	1	381	3180	9
760769	●●●●●●	26	0	394	2790	9
760824	●●●●●●	28	0	380	2620	10
760835	●●●●●●	29	0	390	3015	9
770503	●●●●●●	31	0	382	3415	9
770755	●●●●●●	29	1	356	2780	8



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



東大産婦人科では昭和48年1月から東大病院で分娩したすべての症例につき妊娠経過分娩結果,新生児結果など216項目のデータを大型コンピュータに蓄積し活用している。今回そのシステム,利用法,問題点につき報告する。